

栗駒山の火山活動解説資料（平成 27 年 8 月）

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1）

大柳に設置している遠望カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図 3、図 4）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山周辺では、「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

・ 地殻変動の状況（図 5、図 6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

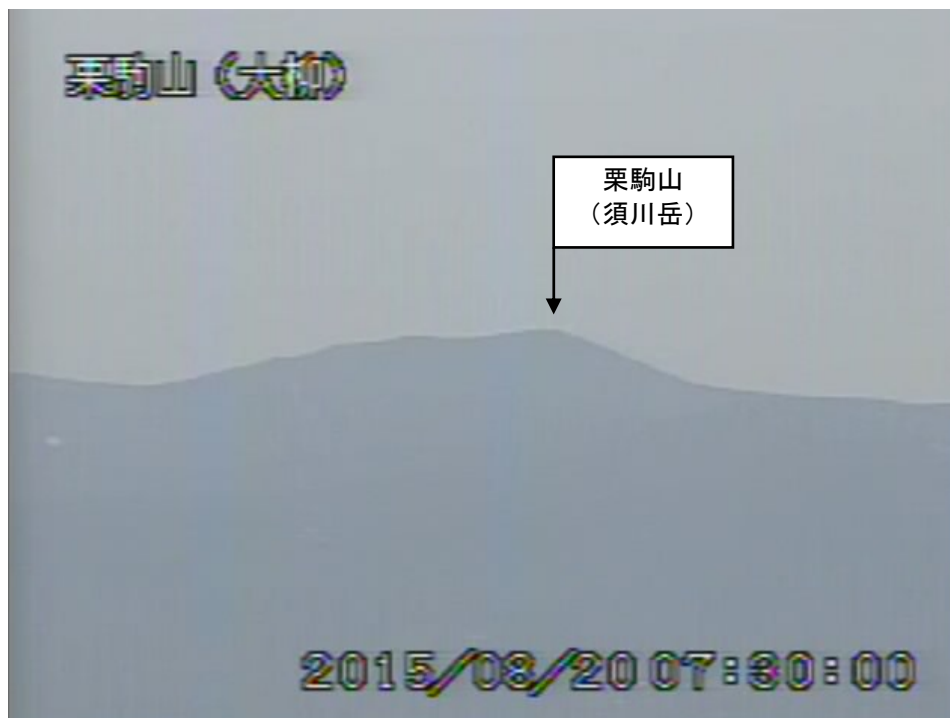


図 1 栗駒山 山頂周辺の状況（8 月 20 日）

・ 大柳（山頂の南東約 20km）に設置している遠望カメラの映像です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成27年 9 月分）は平成27年10月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。

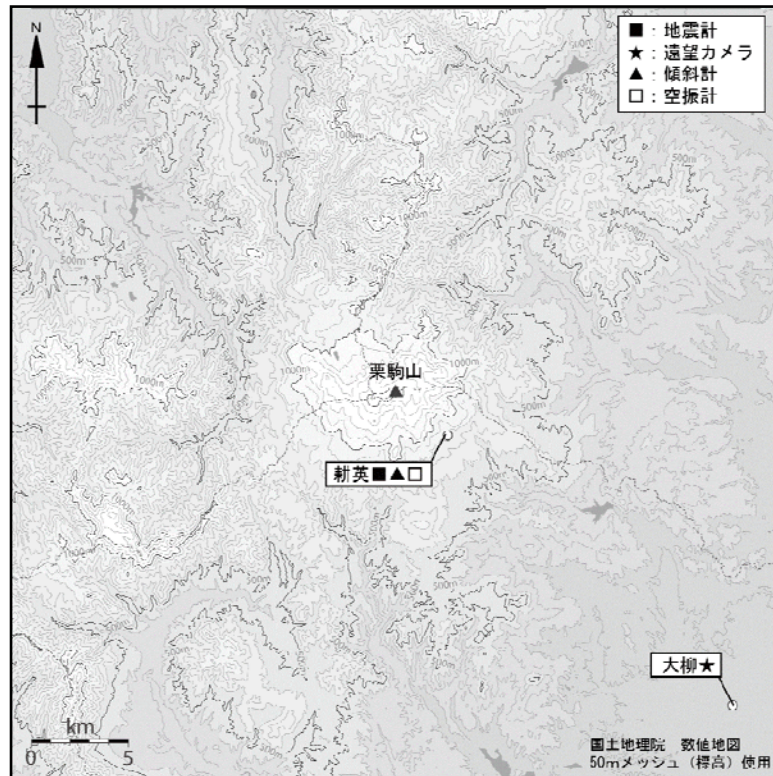


図2 栗駒山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁の観測点位置を示しています。

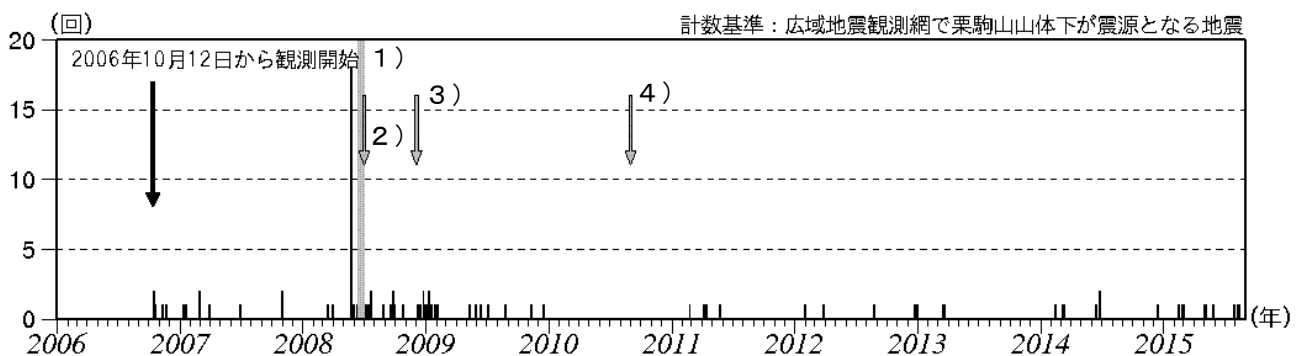


図3 栗駒山 日別地震回数（2006年10月～2015年8月）

・2006年10月12日から旧耕英観測点（山頂から南東約4km）で観測を開始しました。

1) 2008年6月14日から7月2日18時（図の灰色部分）まで「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の影響により観測不能となっていました。

2) 2008年7月2日18時から小安（おやす）観測点（山頂から北西約10km）で監視を開始しました。

3) 2008年12月4日から旧耕英観測点で観測を再開しました。

4) 2010年9月1日から耕英観測点（山頂から南東約4km、旧耕英観測点とほぼ同じ場所）で観測を開始しました。

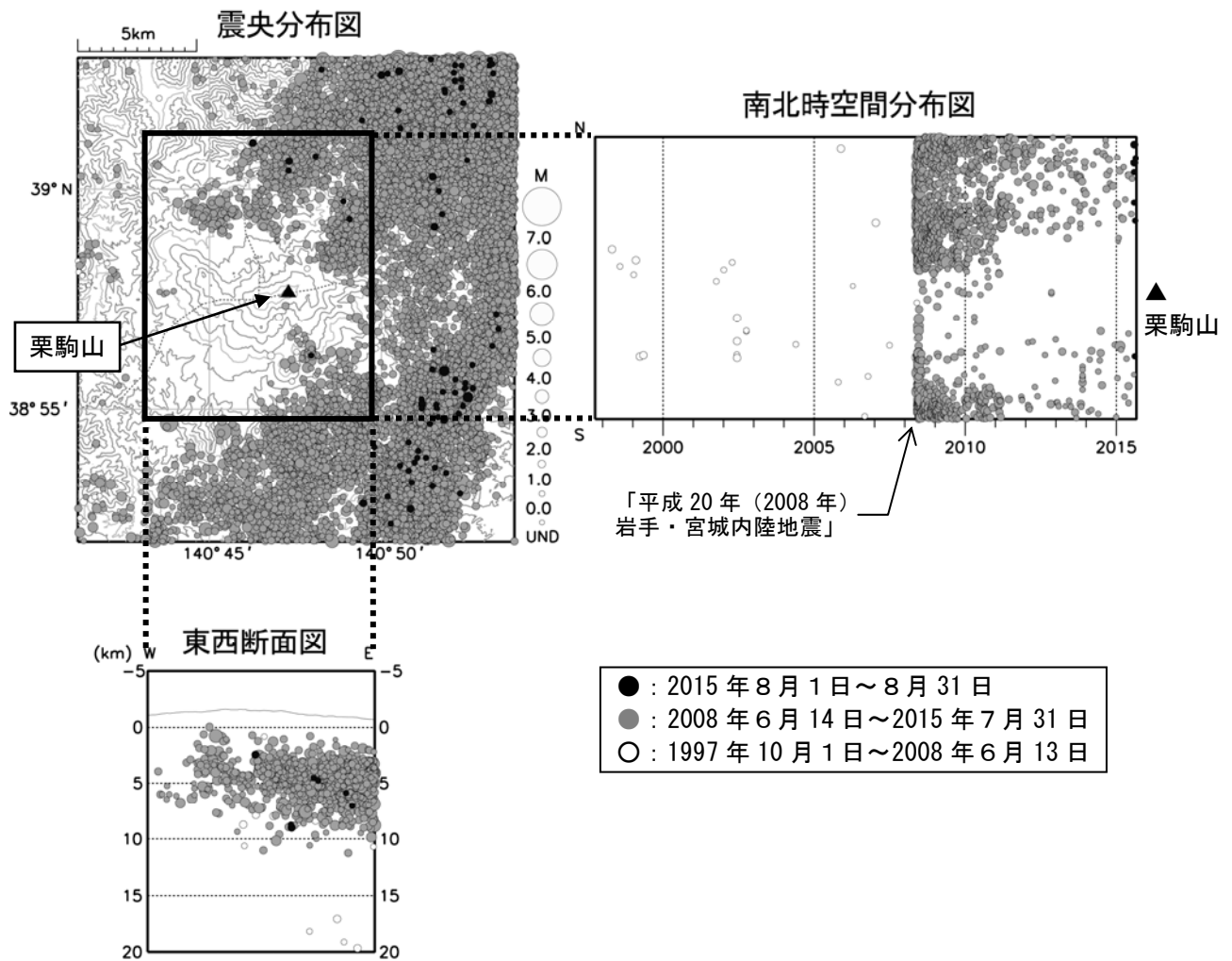


図 4 栗駒山 広域地震観測網による栗駒山周辺の地震活動（1997 年 10 月～2015 年 8 月）

- ・ 2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。
- ・ M（マグニチュード）は地震の規模を示します。
- ・ 図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。

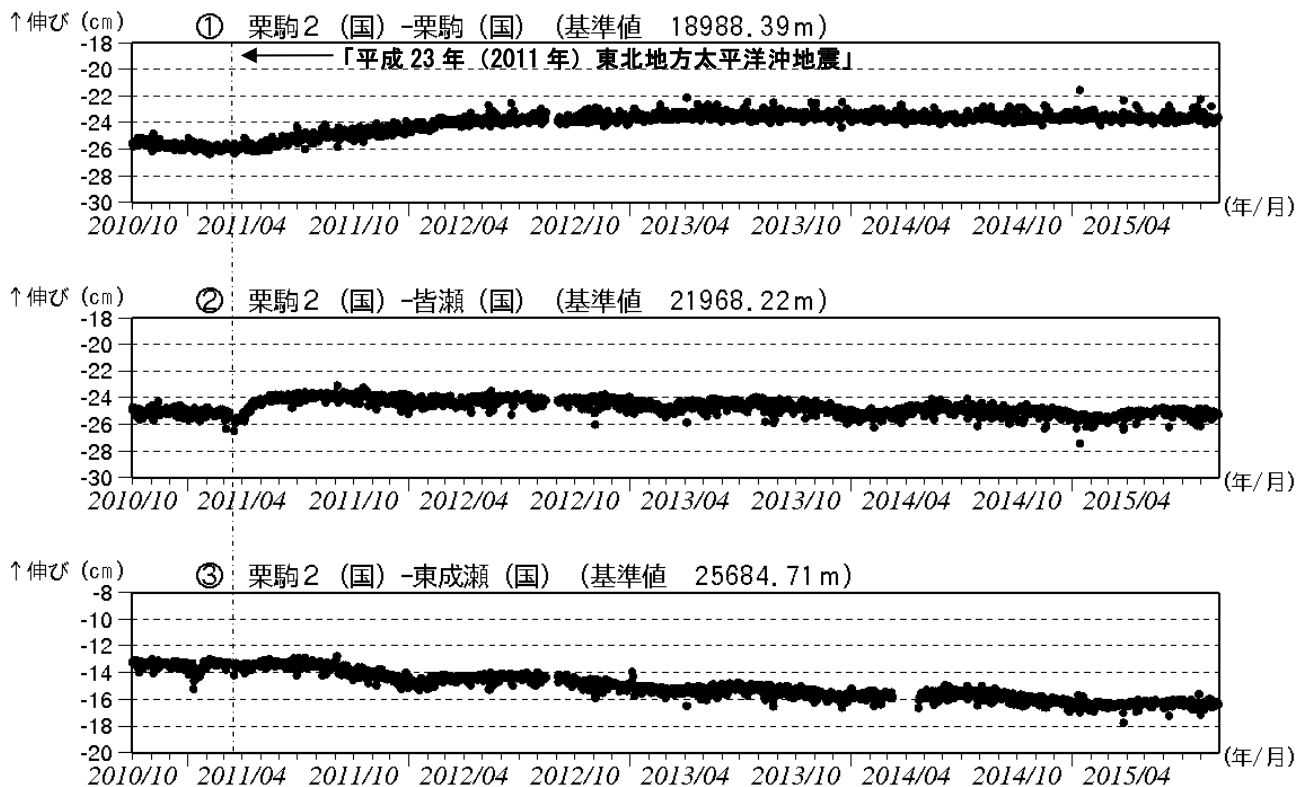


図5 栗駒山 GNSS¹⁾ 基線長変化図（2010 年 10 月～2015 年 8 月）

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

- ・ 2011 年 3 月 11 日以降の変動は、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。
- ・ 「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・ ①～③は図 6 の GNSS 基線①～③に対応しています。
- ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・ 各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。

(国)：国土地理院

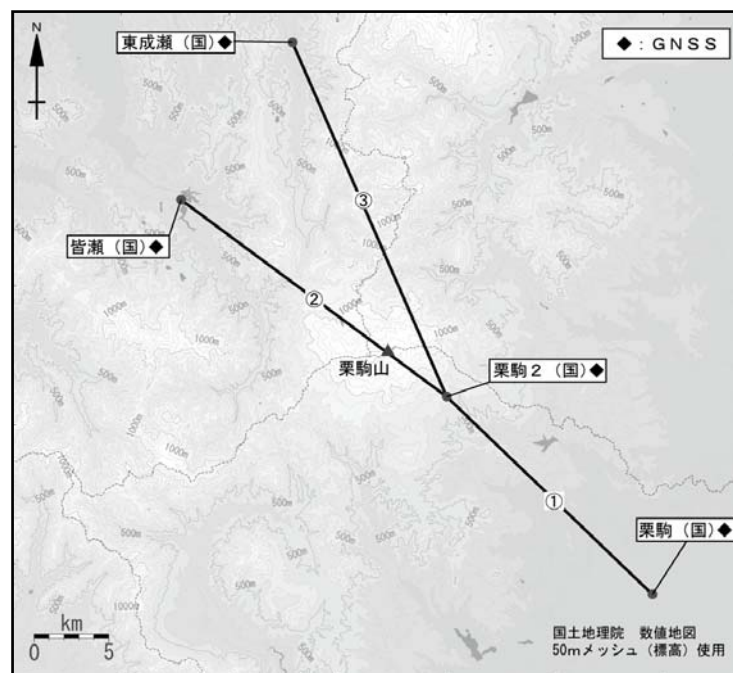


図6 栗駒山 GNSS 観測点配置図

小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院